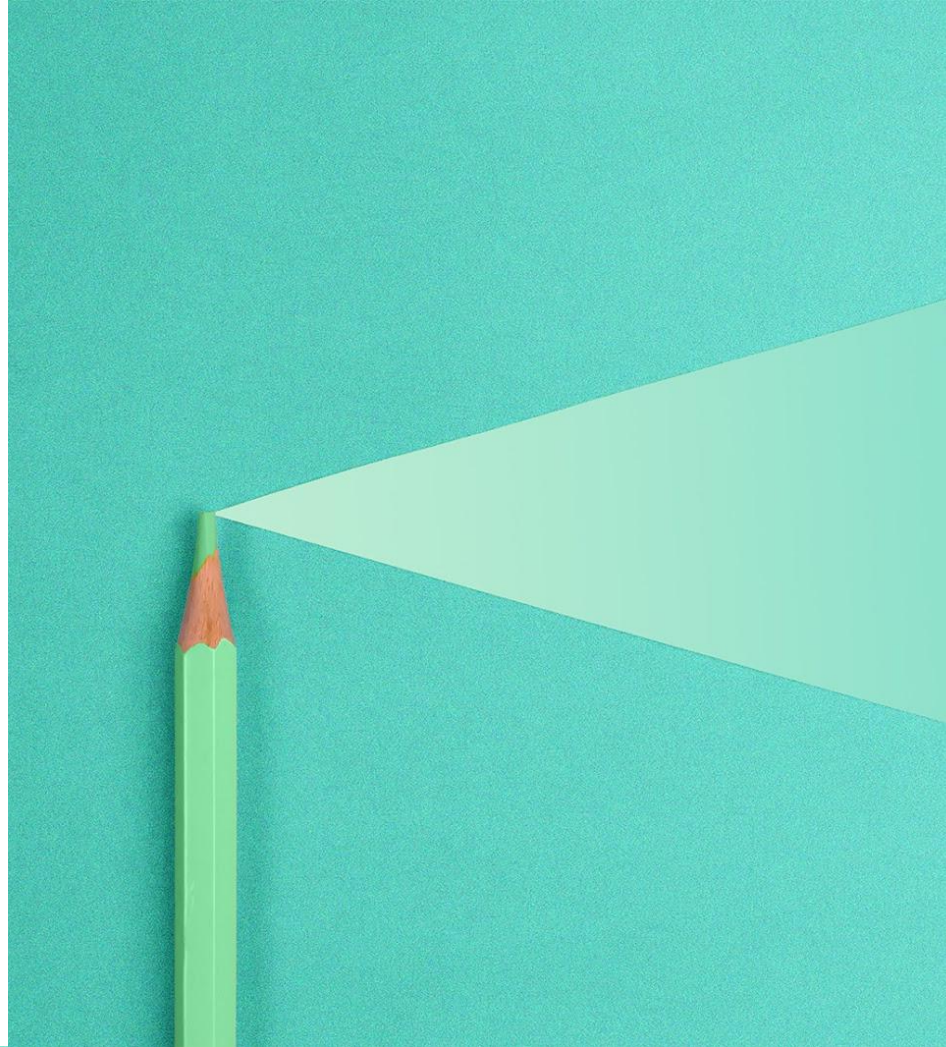


チームみらい

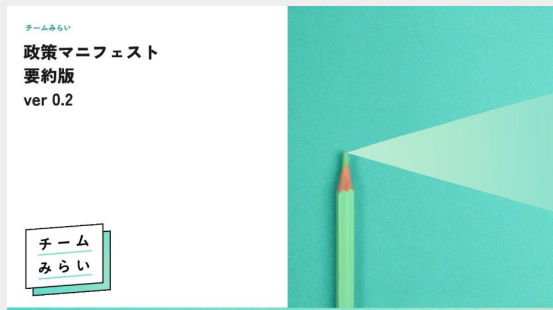
政策マニフェスト テーマ別解説版 デジタル民主主義編



本資料はチームみらいのマニフェストを政策テーマごとにまとめたものです。
概要をまとめた「要約版」、マニフェスト全体をご覧いただける「詳細版」も
ございますので、ぜひ合わせてご覧ください。

要約版

【要約版】



<https://speakerdeck.com/teammirai/timuraimanihuesuto-yao-yue-ban-v0-dot-2>

20ページほどのスライドでマニフェストの概要
をご覧いただけるものです

詳細版

【詳細版】



<https://policy.team-mir.ai/>

AIに質問をしたり、AIとおしゃべりをしながら
内容提案をしたりすることが可能です

チー ム
み ら い

について

テクノロジーで 政治をかえる。 あなたと一緒に 未来をつくる。

チー ム
み ら い

テクノロジーは、難しい技術のことじゃない。

できなかったことを、できるようにする方法のことだ。

私たちはテクノロジーで、政治の透明化・効率化を実現する。

それは今すぐできる。そしてあなたの生活を着実に改善できる。

政治は、限られた人のものじゃない。

本来、私たち一人ひとりの手の中にあるべきものだ。

私たちはテクノロジーで、政治とあなたの距離を近くする。

もっと気軽に参加できる、もっと参加したいものへ変えていく。

未来は、理想を語るだけじゃ変えられない。

今をひとつずつ改善することでしか、良くできない。

私たちは自分たちの手で、今すぐできることを今すぐ実行する。

あなたと一緒に一歩一歩、未来は明るいと信じられる国へ。

新党・チームみらい

テクノロジーで政治と未来を良くすることを目指す新党です

**私たちは、
手を動かす。**

現場視点で建設的なプランを考え、
自らの手で素早く実行します。

**私たちは、
オープンにする。**

意思決定も、お金の流れも、プロセスも。
透明に、誠実に、信頼とともに歩みます。

**私たちは、
誰かをおとしめない。**

他党も政治家も、日本の未来をつくる仲間。
協力できる箇所を探し、一緒に進みます。

**私たちは、
分断を煽らない。**

感情ではなく、データと事実で語ります。
批判より提案を。分断より解決を。

**私たちは、
何事も決めつけない。**

正解はひとつじゃない。多様な声に耳を傾け、
より良い答えがあれば、柔軟に改善します。

チームみらいは、パイの再分配だけでなく、成長を目指します

マニフェストでは、3つのステップで成長を目指す政策を掲げています

ステップ1：
デジタル時代の当たり前をやり切る

デジタルにおける「当たり前」を実行するだけで成果が出る「のびしろ」を発見し、すばやく実行します。

ステップ2：
変化に対応できる、しなやかな仕組みづくり

硬直的な現在の税制、教育、医療制度を、変化に迅速に対応できるしなやかな制度に再構築します。

ステップ3：
長期の成長に、大胆に投資する

前ステップで生み出した余剰資金を子育てや新産業創出、科学技術、文化振興に持続的な投資を実行します。



党首・安野たかひろ

1990年生まれの34歳

AIエンジニア・起業家・SF作家

2024年、東京都知事選に出馬。15万4638票を獲得。
東京都の外郭団体「GovTech東京」アドバイザーと
して、自治体などのデジタル化を支援。デジタル庁
デジタル法制ワーキンググループ構成員。

東京都生まれ。東京大学工学部システム創成学科卒。在
学中、AI研究の第一人者、松尾豊氏の研究室に所属し、
機械学習を学ぶ。ボストン・コンサルティング・グルー
プを経て、AIスタートアップ2社を起業。

チームみらいとつながろう



[@anno_teammirai](#)



[@安野貴博](#)



[@team_mirai_jp](#)

マニフェスト テーマ別解説版

チームみらいの政策の柱

1. 新産業育成による**所得倍増**
2. 日本を世界一の「**子育て先進国**」へ
3. **いびつな税・社会保障制度を未来志向で再構築**
4. 立法の「**見える化**」
5. 「**政治とカネ**」問題に**終止符**を打つ

チームみらいのマニフェストを構成する政策テーマ

政治と行政

デジタル民主主義

暮らしと行政

経済財政

生活と社会保障

教育

子育て

医療

福祉

技術と産業

科学技術

産業

エネルギー

本資料ではデジタル民主主義についてご紹介します

政治と行政

デジタル民主主義

暮らしと行政

経済財政

生活と社会保障

教育

子育て

医療

福祉

技術と産業

科学技術

産業

エネルギー

政策テーマ

デジタル民主主義



デジタル技術で、政治をもっとオープンで透明に

1

立法をもっと
オープンに

デジタル技術を活用することで立法をよりオープンにし、国民がより参加できる民主主義を実現します

2

「政治とカネ」
問題の終結

政治資金の透明化の解決策をすでに用意しており、与野党を超えて政党内資金の見える化を実現します

1 デジタル技術の活用で国民がより参加できる民主主義を実現

現状課題

- 立法プロセスは国会の中に閉じており、国民にとって分かりやすいものではありません
- 国民の声を届ける仕組みが限定的で政治への参加のハードルも高いのが現状です
- 現在行政で行われている”パブリックコメント”といった仕組みに対し、多数派工作等の課題が発生しつつあります

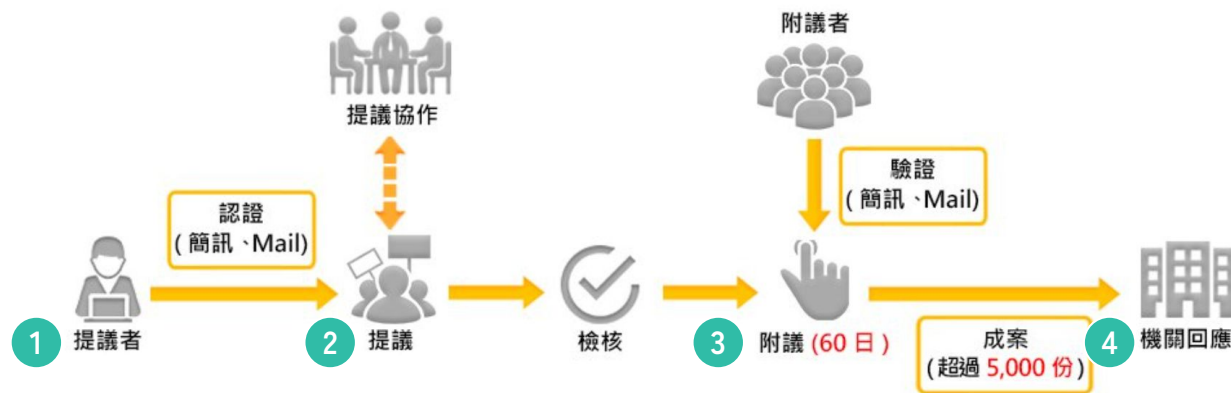
チームみらいは

- パブリックコメントの現状課題を、意見の整理や取りまとめにAIを活用することで解決します
- その上で、AIを活用した立法プラットフォームを構築し、国民がより参加できる民主主義を実現します

私たちは、AIは"活用"するものであり、
最終的な政治的意思決定は
人間が行うべきと考えています

台湾の政策提案プラットフォーム「ジョイン」では誰もが政策提案可能

台湾の「ジョイン」における国民の声を政策に取り入れる仕組み



台湾の国籍or居住許可があれば誰でも政策提案が可能

必要に応じて専門家とも提案内容を協議の上、提案を作成・提出

承認されるとジョイン上で公開、60日間の賛同募集期間へ

5,000人以上の賛同を得ると“成案”となり、政府機関が正式回答をする義務あり

「ジョイン」の実績

2015年の公開以来：

- 全人口の7%に相当する150万人が登録
- 約170件の市民提案が政策化

約10,000
市民提案

約350
成案

約170
政策反映

チーム
みらい

チームみらいはテクノロジーを活用した立法プラットフォームを構築

意見収集

現状の課題

SNS等既存の市民の声や、
パブリックコメントが
活用されにくい

AI等でより良く
できること

意見を集める・
整理する

政策内容

1
ブロードリスニング
の実現

2
対話型の意見抽出
ツールの開発

熟議

合意形成に有効な"熟議"は
高コストでスケールしづら
い

議論を促す・
支援する

3
熟議型政策形成
プラットフォームの
構築

政策選定

民意を反映しながら政策
効果を合理的に評価する
ことが難しい

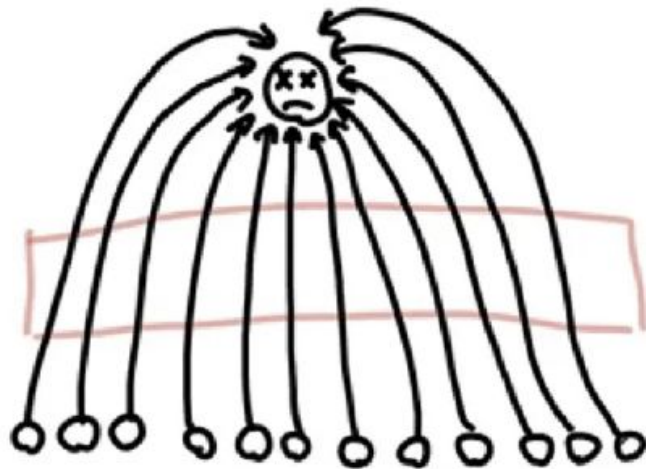
合理的選択を
支援する

4
予測市場の実験導入
*市場メカニズムを取り
入れた意思決定支援

ブロードリスニングで国民の声が政治へ

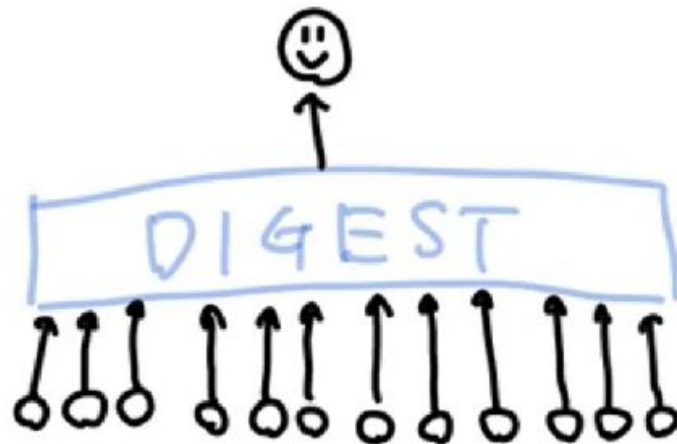
既存の意見募集

受け取り側がパンク



ブロードリスニング

多くの声を上手に収集

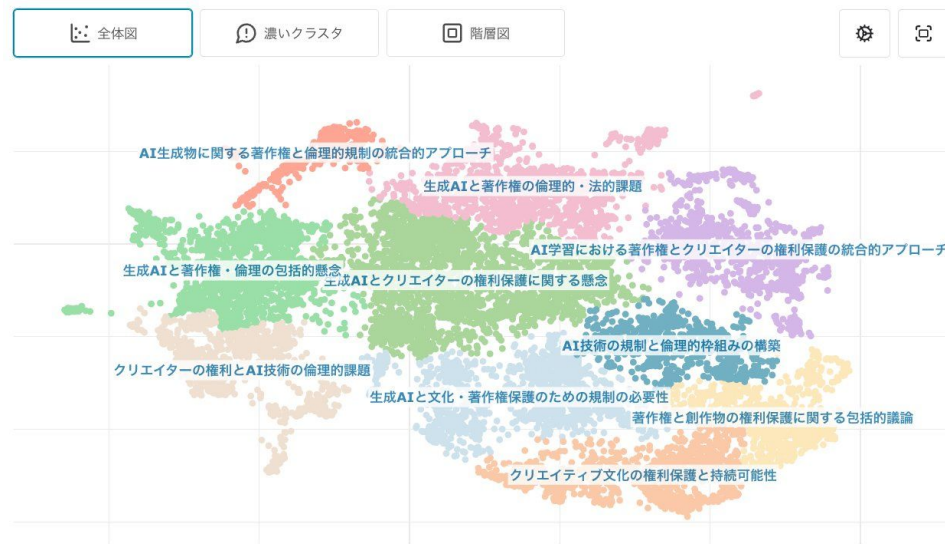


他政党や自治体が使いやすいよう改良したツール『広聴AI』を開発

広聴AI

ブロードリスニングを実現するためのツールで、アメリカのNPOが開発した「Talk to the City」をベースに、日本の政治家や自治体の実務に合わせて機能をアップデート。

党首・安野が立ち上げたオープンソースプロジェクト「デジタル民主主義2030」の有志によって開発されました。



より広く意見を集め議論を深めるツールとして 『熟議型政策形成プラットフォーム』を構築

AIの力で多様な意見を引き出し、**熟議を支援するプラットフォーム**を構築。例えば以下のようなAI支援が可能です：

- **意見の収集**
 - "AIが全国民にインタビュー"するような対話型の意見抽出ツールを開発・展開
- **論点投票**
 - AIにより論点を抽出の上、優先課題を投票で決定
- **重要論点議論**
 - 重要な論点に関してはAIが進行役を務める、誰もが参加可能なオンライン議論で議論を深化
- **具体提案議論**
 - AIで議論の偏りや抜け漏れを補正し提案内容を改善

最終的な判断・意思決定は人間が責任を持って行います。

その過程でAIが議論の可視化や構造化を中立的な立場で担うことで、最終的な判断を、より透明で納得感のあるものにします。

意見の収集だけでなく、論点を整理・可視化し政策決定をサポート



1 意見を広く収集し...

- パブリックコメントに留まらず、SNSでのポスト、動画サイトでのコメントなどからも国民の声を広く収集

2 議論地図を生成して最終的な意思決定を助けます

- 収集した声を分析し、どのような意見・論点があるかを整理・可視化

チーム
みらい

チームみらいでは『喋れるマニフェスト』を公開。AIとのチャットを通じて質問・意見提出が可能

詳細版マニフェスト

① マニフェストを見ながら

② AIチャットで質問や議論

- 疑問点はAIに質問
- 意見があればAIとの対話を通じて提案の形にまとめて提出
- 提出された意見は反映状況を追跡可能

チャット

表示中のドキュメント「16_ステップ1 デジタル民主主義」について質問や意見を入力してください。または「こんにちは」と挨拶してみましょう！

メッセージを入力してください（Shift+Enterで改行）...

送信

policy / 16_ステップ1 デジタル民主主義.md

本マニフェストは作成途中版であり、内容は今後変更の可能性あります。
ご意見・ご指摘をもとに、より良いものへと進化させていきます。詳しくはこちら

6. デジタル民主主義

ビジョン

今の投票による間接民主主義は数百年前に出来上がった制度です。当時はインターネットもSNSもAIもありませんでした。今のデジタル技術を使うことによって、より多くの人がより深いレベルでコラボレーションをすることが出来るようになって考えています。

また、デジタルツールを導入するといっても、最終的な意思決定をAI任せや多数決任せにするというわけではありません。私たちは、政治的意思決定は責任が取れる主体である人間が行うべきであると考えています。

1) AIを活用したパブリックコメントの機能不全の解決

現状認識・課題分析

問題: パブリックコメントという意見募集システムがあるが、機能不全に陥っている状態

3月末より複数のメディアで、パブリックコメントにおいて提出される意見の数が「異常件数」であると報道があった。背景には、何個も同じ趣旨の投稿を繰り返す多数派工作などの存在があることがわかつ

2

1

チーム
みらい

予測市場の実験導入により、市場メカニズムを用いて意思決定の精度を向上させることを目指します

現状課題

- 特定の政策を実行した時の効果を推定することが難しい
 - シンクタンク等に依頼して集計してもらう必要がある
 - 予測に党派性が絡んでしまうことによって、どのレポートを信用すべきか？ という判断が難しくなる

チームみらいは

- 「予測市場」の枠組みで、特定の政策実行時の効果を市場メカニズムを用いて推定
 - 例：子育て減税を実行した場合の出生数へのインパクトはどの程度か？
- 参加者は株式市場と同様に、経済的インセンティブに基づいて予測精度向上を目指しながら参加する（予想が当たれば収益が、外れれば損失が発生）
- これにより、党派性を排した形で集合知を活用できる

2 政治資金の情報をデジタル化し、政治資金の透明化を実現

現状課題

- 汚職・贈収賄や団体献金など、政治資金をめぐる問題は後を絶ちません
- 政治資金の不透明な流れは国民の政治不信を招き、民主主義の健全な発展を阻害する要因となっています



チームみらいは

- 政治資金報告書の情報を他の情報ソース等と照合することで、政治資金の出どころや流れを透明化します
- 政党の銀行口座と議員のクレジットカード情報を連携することで、国会議員の支出をリアルタイムに把握します



民間や他国のベストプラクティスを活用し、政治資金の透明化を実現

政治資金の透明化

政治資金報告書の情報を、入札情報や官報など他の情報ソースとデジタルで統合・照合することで、政治資金の出どころや流れを透明化します

国会議員の支出のリアルタイム把握

政党の銀行口座や議員が使用するクレジットカードの情報を連携させ、支出情報を自動取得することで国会議員の支出をリアルタイムに把握します

政治資金報告書の作成工数の削減や記載不備の防止だけでなく、不正防止にも貢献します

民間や他国ではすでにクレジットカードを用いた支出の見える化が実現されている

民間の取り組み

- クラウド会計ソフトなどの導入が進むと同時に、従業員に対し経費精算用のクレジットカードを貸与する企業も増加
- 会計ソフト、クレジットカード、銀行口座が連携されることで、資金管理の状態をリアルタイムで把握できるダッシュボードが存在

スウェーデンでの取り組み

- スウェーデンでは30年前から閣僚に対して公務支出の支払い用にクレジットカードを貸与
- クレジットカードの利用状況は自動的に公開され、誰がどこにお金を使ったかを追跡可能

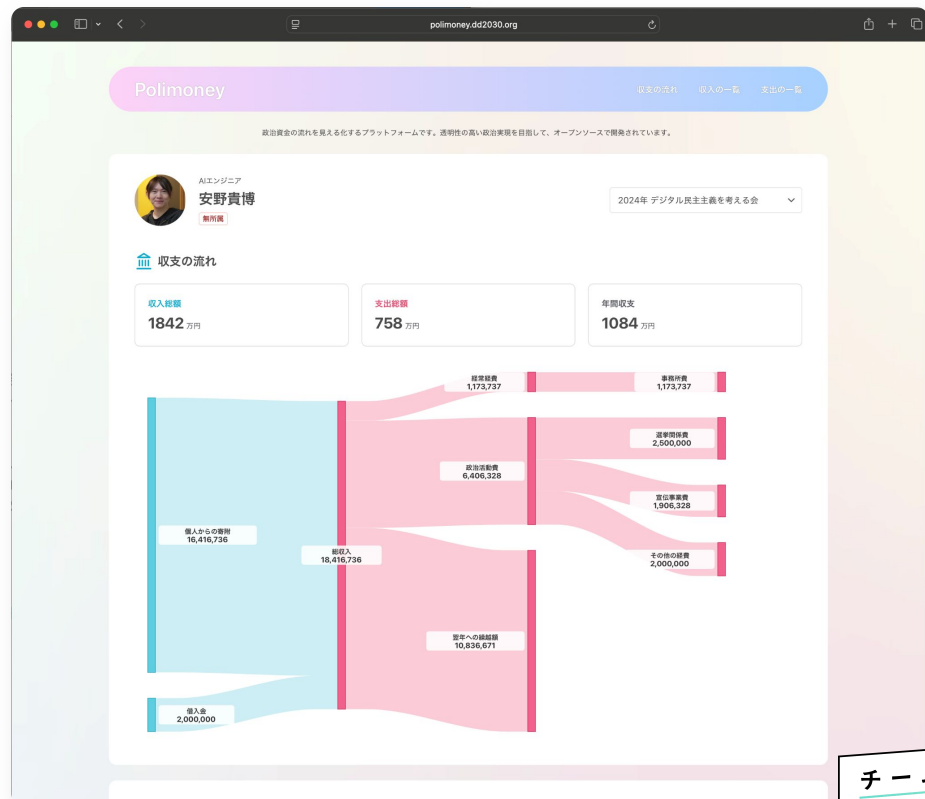


政治資金の見える化ダッシュボード「Polimoney」を発表済み

Polimoney

政治資金の透明化を実現することを目的としたデジタルツール。党首・安野が立ち上げたオープンソースプロジェクト「デジタル民主主義2030」の有志によって開発されました。

設計図となるコードが公開されており、誰でもアクセスすることが可能です。
将来的には与野党全体での使用を推進することで政治の信頼回復に貢献します。



「政治とカネ」問題を終わらせ、国民がより参加できる民主主義へのアップデートを進めていきます

ステップ1

デジタル時代の
当たり前をやりきる

ステップ2

変化に対応できる、
しなやかな仕組みづくり

ステップ3

長期の成長に
大胆に投資する

立法を
もっと
オープン
に

パブリックコメント
の機能強化

テクノロジーを活用
した立法プラット
フォームの構築

「政治と
カネ」
問題の
終結

政治資金透明化の
推進

ブロードリスニングの
実現

対話型の
意見抽出ツールの開発

予測市場の実験導入

熟議型政策形成PF*の
構築(*プラットフォーム)

チーム
みらい

ありがとうございました